

香川県立ミュージアム **新しい展示**が始まります

アート・コレクション

古都の風景



鎌倉秀雄「まめりょう きさらぎ豆涼・如月」1993年

- 会 期** 令和6年1月2日(火)～2月25日(日)
開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日、2月13日(火) (ただし1月8日(月・祝)、1月15日(月)、2月12日(月・振替休)は開館)
- 会 場** 香川県立ミュージアム (高松市玉藻町5番5号)
常設展示室2
- 展示内容** 長く歴史の中で育まれた都。その姿はしばしば作品のテーマとしても取り上げられました。
香川ゆかりのひかさすうけい樋笠数慶 (1916～86) やかまくらひでお鎌倉秀雄 (1930～2017)、いのうえあきとし井上明敏 (1954～) らが描く、四季に彩られた寺の風景、華やかなまいこ舞妓の姿などを紹介します。
- 展示点数** 5点
- 観覧料** 一般410円 団体(20名以上)330円
高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料
特別展「第70回日本伝統工芸展」開催中(1月2日～21日)は特別展観覧券でご覧いただけます。
- 関連行事** ミュージアムトーク (展示内容について担当職員がわかりやすくお話しします。)
日時 1月13日(土)14:30～、2月11日(日・祝)13:30～ (各回30分程度)
場所 常設展示室2 *申込み不要、観覧券が必要

(裏面に続く)

7 主な展示品

かまくら ひでお
鎌倉 秀雄 (1930~2017) 「^{まめ ちづ}豆千鶴・^{まめりょう}豆涼」 1992 年



京都の名妓・豆千鶴、豆涼を描いている。日本画家・^{はせがわせいちょう}長谷川清澄から「舞妓も2人ですと違った形がまたできていいものですよ。」と勧められ、豆涼より1歳年上の豆千鶴も呼んで構成・制作した。紅葉をあしらった着物、揺れる花飾りなど、身支度を整える舞妓たちの、何気ない瞬間を描いている。

鎌倉 秀雄

^{やすだゆきひこ}東京都出身。安田靫彦に師事。日本美術院で活躍。1980年代前半には古代エジプトをテーマに、以後、奈良の古寺や古都の庭園の美、美の結晶ともいえる舞妓など、日本美の原点を追究した題材をもとに、余情に満ちた作品を制作。父は香川県出身の重要無形文化財「^{かまくらよしとらう}型絵染」保持者・鎌倉芳太郎。

ひかさ すうけい
樋笠 数慶 (1916~1986) 「^{せいいき}聖域」 1971 年



法隆寺の五重塔は、607年に創建された。鑑賞者が五重塔を回廊から見上げるような視点で描かれた本作。作者は、『*凍れる音楽とも言われる建築物の(塔)の美しさ、それらが醸し出す雰囲気、絵になりそうで、なり難い角度に敢えて挑戦している。』と言葉を残している。

*：「日本美術院百年史十一巻(日本美術院発行 平成9年)」

樋笠 数慶

香川県出身。高松第一中学校卒業後、^{ぼぼふじ}馬場不二に紹介され、^{ごうくらせんじん}郷倉千靫に師事。1983年(昭和58)再興第68回院展文部大臣賞受賞。1986年(昭和61)日本美術院同人に推挙。セザンヌの空間構成に影響を受け、構成的な画面を明暗や線を使い、自然の移ろいを捉えた風景や花鳥画を描いた。